

ご使用のしおり

《取扱説明書》

Copyright © 2011 Sony Electronics Inc.

安全上のご注意

- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。
- いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

絵表示の例

	△記号は、警告・注意を促す内容があることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は一般的な注意）が描かれています。
	○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制したり、指示したりする内容を告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は一般的な強制）が描かれています。

警告 感電・火災の恐れがあります。



一般家庭用 交流電源 100 V で
ご使用ください。



以下のような時は、電源スイッチを切り電源プラグを
引き抜いてください。

- ・ミシンのそばを離れるとき
- ・ミシンを使用したあと
- ・ミシン使用中に停電したとき



注意 感電・火災・けがの原因となります。



[禁止]

フットコントローラーの上に
物をのせないでください。



お子様のご使用になるときや、
お子様の近くでご使用される
時は、特に安全に注意してく
ださい。

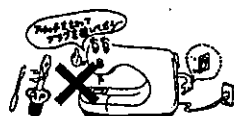


お客様自身での分解はしないでください。

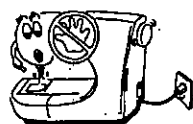


以下のことをするときには、電源スイッチを切っ
てください。

- ・針・針板・押え・アタッチメントを交換するとき
- ・上糸・下糸をセットするとき
- ・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行っ
てください。）
- ・ミシンのお手入れを
行うとき



ミシンの操作中は、針から目を離さないよう
にし、針・はずみ車・天びんなどすべての動
いている部分に手を近づけないでください。



ミシン・フットコントローラーに以下の異常がある
ときは、速やかに使用を停止し、お買い上げの販売
店にて点検・修理・調整をお受けください。

- ・正常に作動しないとき
- ・水に濡れたとき
- ・落下などにより破損したとき
- ・異常な臭い・音がするとき
- ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき



[禁止]

曲がった針はご使用に
ならないでください。



※仕様及び外観は改良のため予告なく変更する
ことがありますのでご了承ください。

準備をしましょう

- おとり扱いについてのお願い.....2
- 各部の名まえ.....3
- 補助テーブル.....4
- 標準付属品.....4

操作をおぼえましょう

- 電源のつなぎ方.....5
- スタート・ストップボタン.....5
- 速さの調節のし方.....5
- 照明ランプ.....6
- 返し縫いスタート.....6
- 押え上げ.....6
- 糸調子の合わせ方.....7
- 模様選択ダイヤル.....8
(模様の選び方)
- 送りダイヤル.....8
(縫い目あらかの調節)
- 下糸の準備をしましょう.....9
 - ★ボビンをとり出します.....9
 - ★糸こまをとりつけます.....9
 - ★ボビンに糸を巻きます.....9・10
 - ★ボビンをかまにセットします.....10
- 上糸の準備をしましょう.....11
 - ★上糸をかけます.....11
- 糸通しの使い方.....12
- 下糸を引きあげるには.....13
- 布に適した糸や針を選ぶ目安.....13

実用縫いいろいろ

- 直線縫い.....14
 - ★縫いはじめ.....14
 - ★縫い方向をかえるには.....14
 - ★縫いおわりと糸の切り方.....14
 - ★針板ガイドラインの利用.....14
- ジグザグ縫いとかがり縫い.....15
 - ★ジグザグ縫い.....15
 - ★ジグザグ縫い裁ち目かがり.....15
- かがり縫い.....15
- くけ縫い.....16
- 三重縫い.....16
- ボタン穴かがり.....17
- 芯入りボタンホール.....17
- ファスナーつけ.....18・19

応用縫いいろいろ

- キルティング.....20
- ピンタック.....20
- スモッキング.....20
- シェルタック.....21
- アップリケ.....21
- スーパー模様縫い.....21

押え・針のとりかえ方

- 押えのとりかえ方.....22
 - ★押えホルダーのはずし方・
つけ方.....22
- 針のとりかえ方.....22
- コントローラーの収納.....22

ミシンの手入れと調整

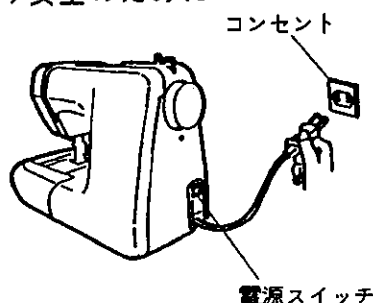
- ミシンの手入れ.....23
 - ★かまの掃除.....23
 - ★かまの分解.....23
 - ★かまと送り歯の掃除.....23
 - ★かまの組立て.....23
- ミシンの調子が悪いときの直し方.....24

別売品のご紹介.....25・26

準備をしましょう

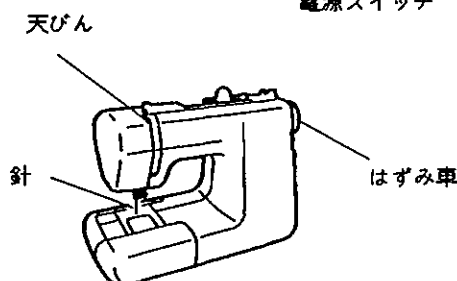
●おとり扱いについてのお願い

★より安全のために



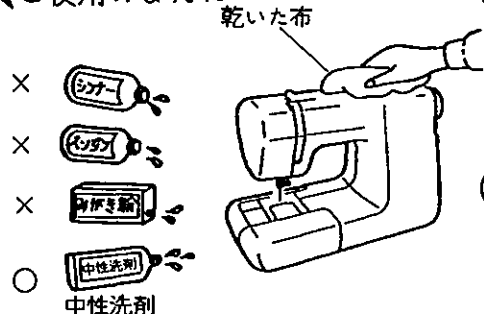
① つぎのようなときは、必ず電源スイッチを切りコンセントから電源プラグを抜いてください。

- 針の周辺でいろいろな作業、たとえば糸通し、針の交換、下糸交換、などの作業をするとき
- 部品の交換、ミシンの手入れをするとき
- ミシンのそばをはなれるとき
- 使用後



② ミシンを動かしているとき、針から目をはなさないように注意し、はずみ車、天びん、針などに手を触れないでください。

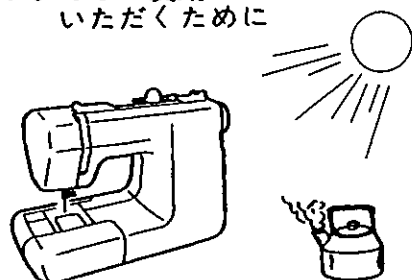
★ご使用のまえに



① ほこりや油などで縫う布を汚さないように、使う前にミシンを乾いたやわらかい布でよくふいてください。シンナー、ベンジン、ミガキ粉は絶対に使用しないで下さい。

② ミシンはこの<使い方の手引き>を見て、正しく、お使いください。

★いつまでもご愛用
いただくために



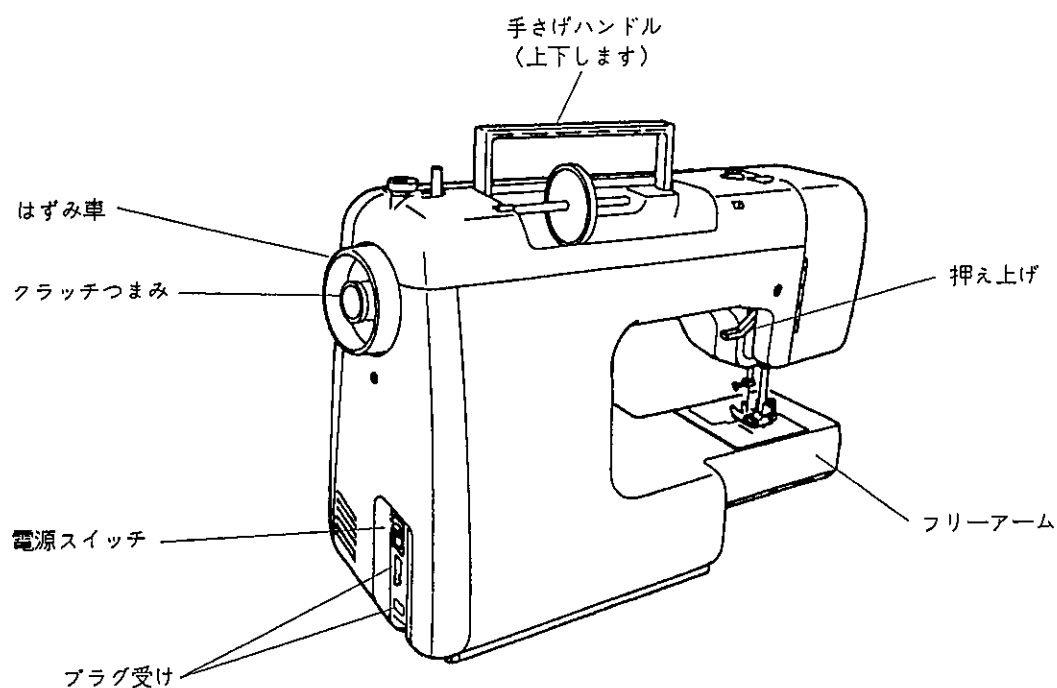
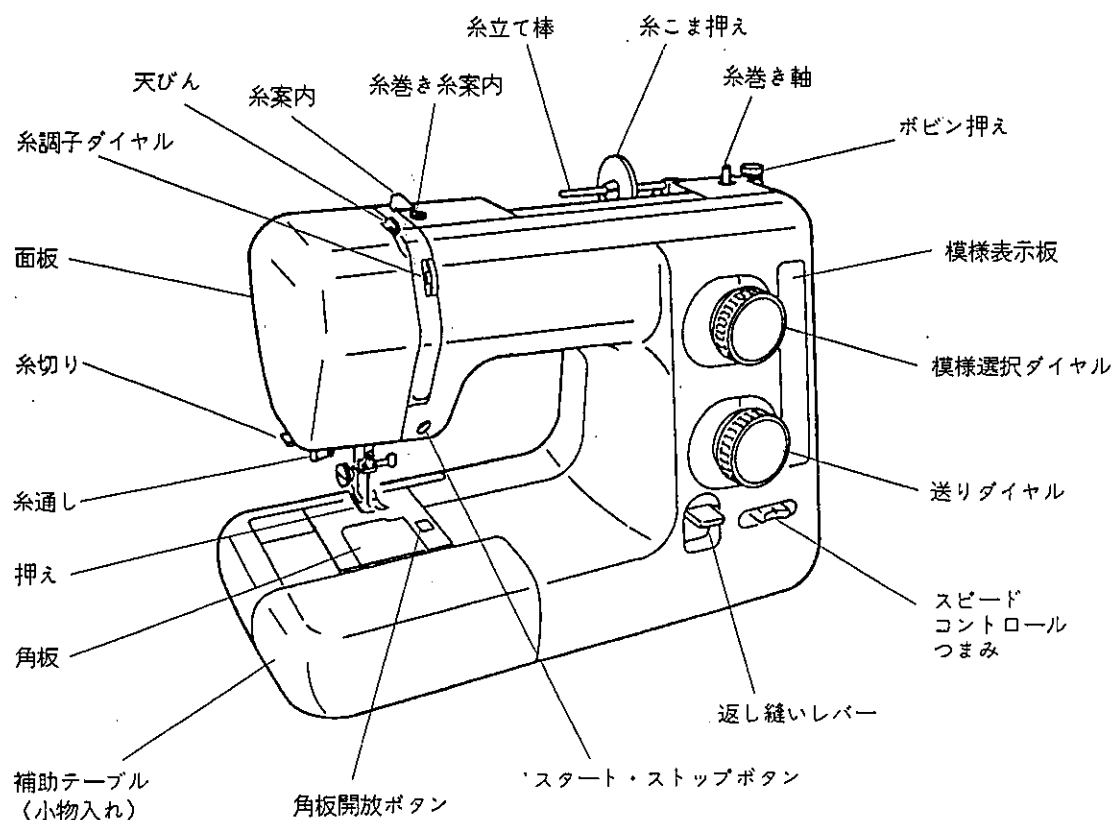
① 長時間日光にあてたり、湿気の多いところはさけてください。

② 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

このミシンは、日本国内用に作られていますので、外国では使用できません。

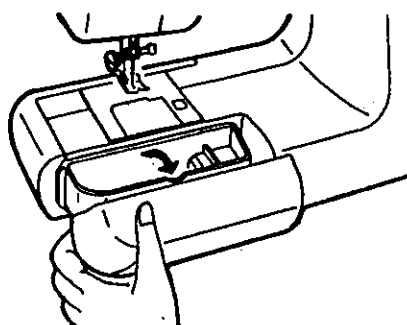
This sewing machine can not be used in foreign country as designed for Japan only.

●各部の名まえ

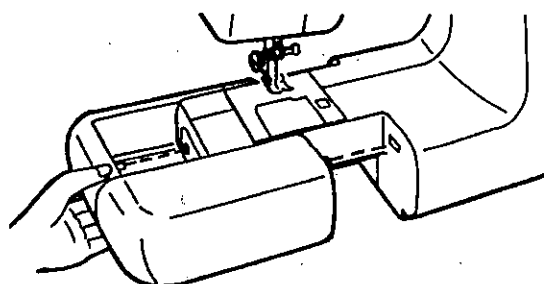


●補助テーブル

★補助テーブルのはずしかた



(補助テーブルをひらくと、
小物部品が入ります。)



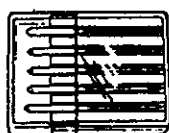
(横に引いてはずします。)

●標準付属品

(押えには、記号を表示してあります。)



A 基本押え



針と針ケース



C 裁ち目かがり押え



ねじまわし



E ファスナー押え



ボビン



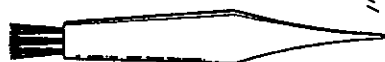
F サテン押え



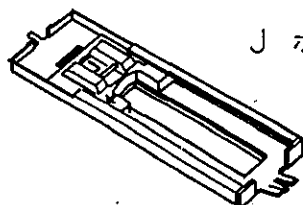
目ほどき



G くけ縫い押え



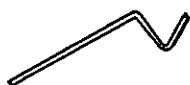
ミシンブラシ



J ボタンホール押え



糸こま押え(小)



キルター
(定規棒)



糸こま押え(大)

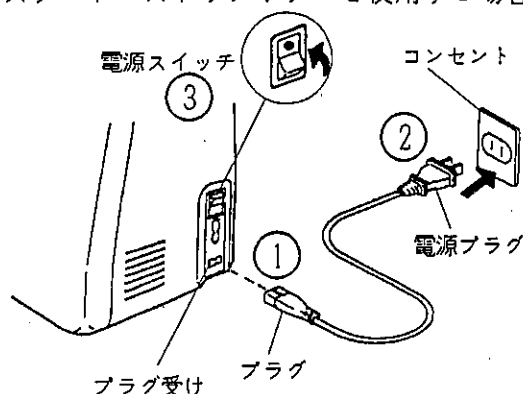
*糸こま押え(大)はミシンの糸立て棒についています。

操作をおぼえましょう

●電源のつなぎ方

※コントローラーはモデルにより別売りになります。

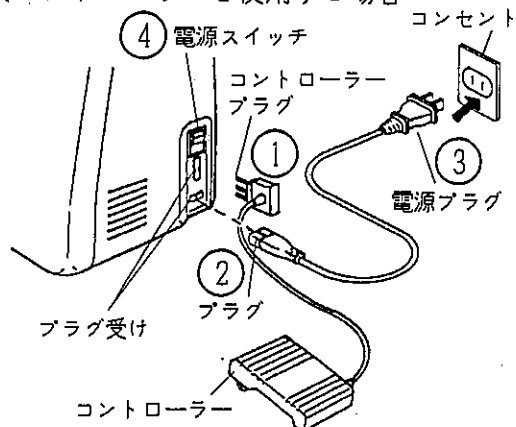
★スタート・ストップボタンを使用する場合



*スイッチの●印は、「入」

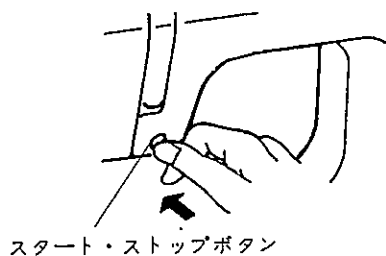
- ① 電源スイッチを「切」にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。
- ② 電源プラグを、コンセントにさしこみます。
- ③ スイッチを「入」にします。

★コントローラーを使用する場合



- ① 電源スイッチを「切」にして、コントローラープラグをプラグ受けにさしこみます。
- ② プラグをプラグ受けにさしこみます。
- ③ 電源プラグをコンセントにさしこみます。
- ④ スイッチを「入」にします。

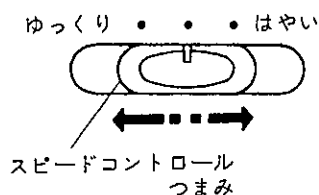
●スタート・ストップボタン



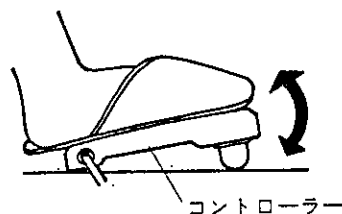
ボタンを押すと、ミシンは数針ゆっくりと縫ってからスピードコントロールつまみでセットした速さで縫いはじめます。もう一度押すと、針が上の位置で止ります。

*下糸を巻くときは、ミシンはゆっくりスタートにならずにセットした速さで動きはじめます。

●速さの調節のし方



縫う速さは、自由にセットできますので、お好みの速さに、スピードコントロールつまみをセットしてください。

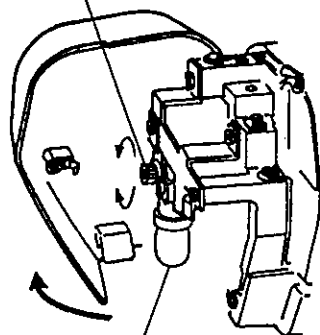


コントローラーは、深く踏み込むほど速くなります。

*スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてください。

●照明ランプ

照明ランプスイッチ



照明ランプ

《つけ方、消し方》

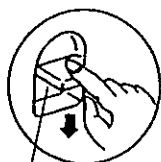
面板をひらいて、スイッチつまみをまわします。

《照明ランプのとりかえ方》

はずすとき・・・・・・左へまわす

つけるとき・・・・・・右へまわす

●返し縫いスタート



返し縫いレバー

ミシンが動いていない状態で返し縫いレバーを押すと、低速で返し縫いをはじめます。

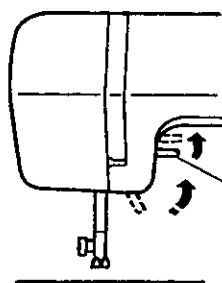
《縫いはじめの返し縫い》

返し縫いレバーを押すと、ミシンは低速で返し縫いをはじめ、指をはなすと止ります。

《運転中の返し縫い》

返し縫いレバーを押すと、押している間は返し縫いをし、指をはなすと前進縫いに戻ります。

●押え上げ



押え上げ

押え上げをあげると押えがあがります。
厚い布を入れるときには、さらにあげて使用してください。

●糸調子の合わせ方

素材や縫い方によって、糸調子ダイヤルをまわして調整します。
糸調子が正しく調整されていないと、縫い目がきたなくなり、
布にしわがよったり、糸が切れたりします。

〈バランスのとれた糸調子〉

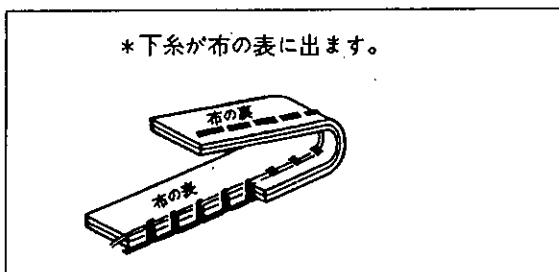


○直線縫いときは、上糸と下糸が
布のほぼ中央でまじわります。

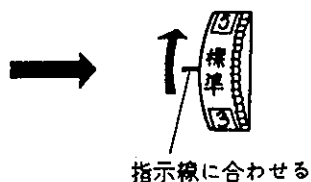
○ジグザグ縫いときは、布の裏側に
上糸が少し出るくらいになります。

〈上糸が強すぎる時〉

*下糸が布の表に出ます。



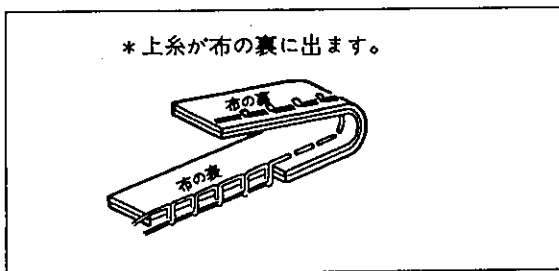
小さな目盛りに合わせます。



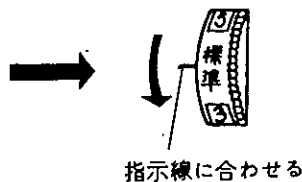
指示線に合わせる

〈上糸が弱すぎる時〉

*上糸が布の裏に出ます。

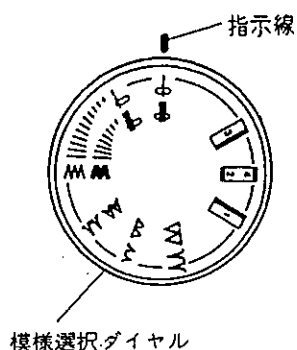


大きな目盛りに合わせます。



指示線に合わせる

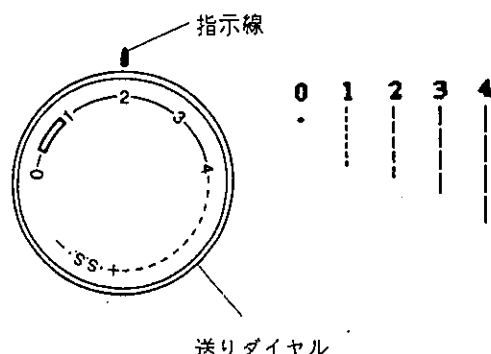
●模様選択ダイヤル（模様の選び方）



針をあげて模様選択ダイヤルをまわし、模様を指示線に合わせます。

*針が布にささったままで模様選択ダイヤルをまわすと針がまがったり、折れたりする原因になります。

●送りダイヤル（縫い目あらしの調節）

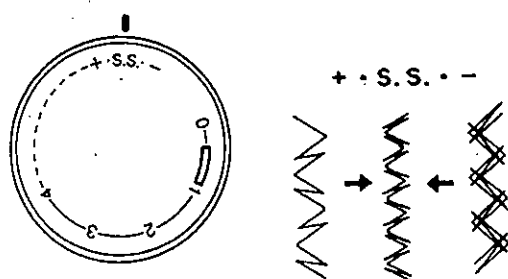


送りダイヤルをまわして、目盛を指示線に合わせます。

模様選択ダイヤルを（ㇿ）または（ㇾ）に合わせておいて、送りダイヤルをまわすと、縫い目のあらしは、左図のように変化します。

* ㇿ は、ボタンホールの縫い目あらしの調節範囲をしめします。

〈スーパー模様の選び方〉

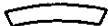
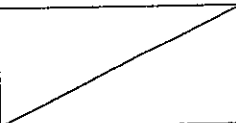


送りダイヤルをS.S.に合わせて、模様選択ダイヤルで選んだ模様は、スーパー模様になります。

■スーパー模様の形の整え方

模様の形が整わないとき、伸びている場合は「－」方向に、つまっている場合は「＋」方向に、送りダイヤルをまわして調整します。

模様を選ぶとき、模様選択ダイヤルと送りダイヤルは、下表を目安にセットしましょう。

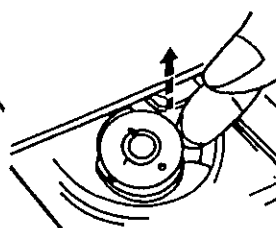
模様									
送りダイヤル				1.5~4		0.5~4	1~3		2~3
スーパー模様									
送りダイヤル				S.S.					

●下系の準備をしましょう

★ボビンを取り出します

角板開放ボタン

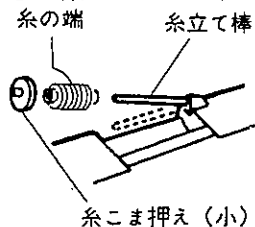
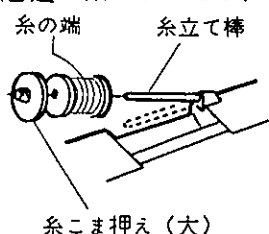
角板があがる



角板開放ボタンを右へずらして角板をはずしボビンを取り出します。

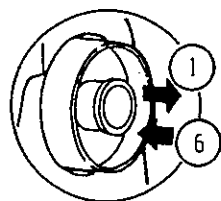
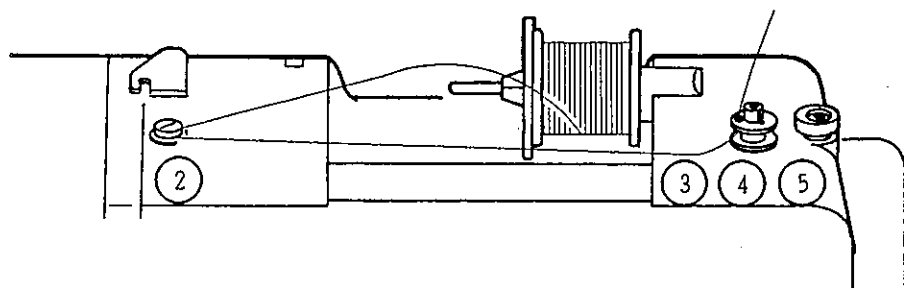
★糸こまをとりつけます

(普通の糸こまのとき) (小さい糸こまのとき)



糸立て棒を軽くおこし、糸の端が向こう側に出るようにして、糸こまを入れ、糸こま押えで糸こまをおさえます。

★ボビンに糸を巻きます



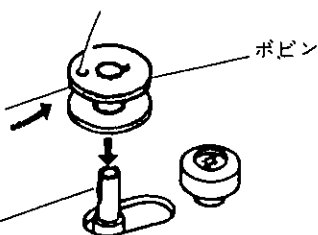
※糸巻き時は、スピードコントロールつまみを「中速～はやい」の間でご使用ください。

① クラッチつまみを引き出します。



糸巻き糸案内

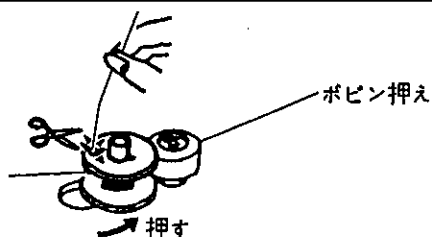
② 糸巻き糸案内に糸を掛けます。



糸巻き軸

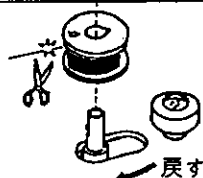
ボビン

③ ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。



- ④ ボビンを、ボビン押えの方に押しつけ糸の端をつまんだまま、巻きはじめます。糸がボビンに3重ぐらい巻きついたら、ミシンを止めて穴のきわで糸を切ります。

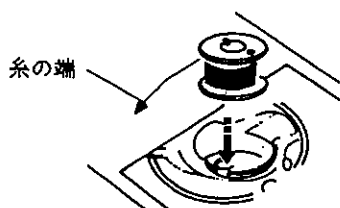
*糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから動かしてください。



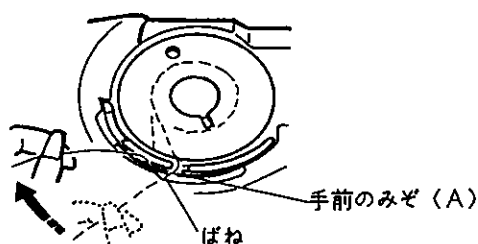
- ⑤ 再びミシンを動かし巻き終わったら、ボビンをもとに戻し、糸巻き軸よりはずして糸を切ります。

- ⑥ クラッチつまみを押しこみます。

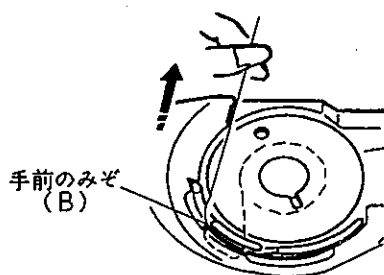
★ボビンをかまにセットします



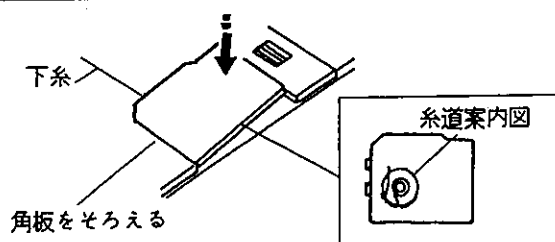
- ① 角板をはずし、糸の端を矢印方向にだして、ボビンをかまに入れます。



- ② 糸の端を引きながら手前のみぞ（A）にかけ、さらに糸を引いて、みぞの外側とばねの間を、通します。



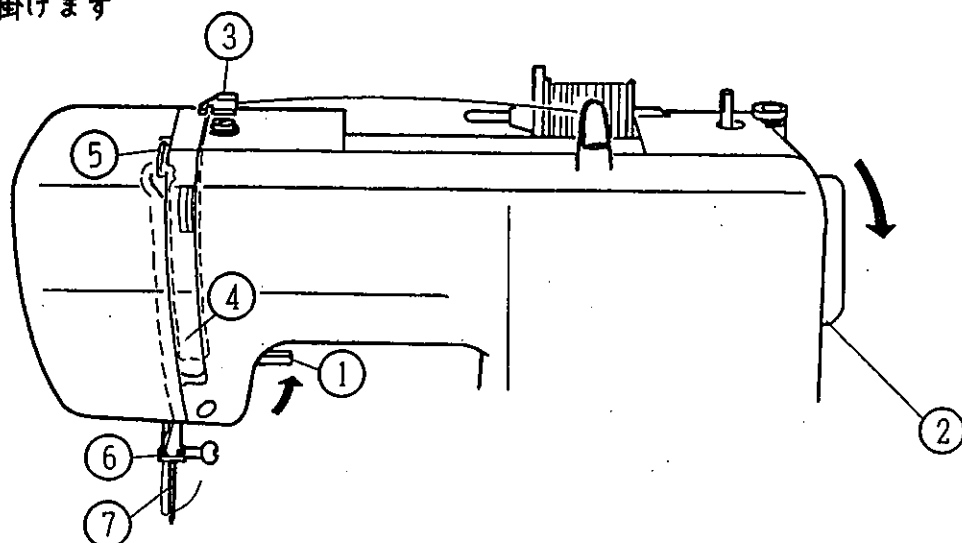
- ③ 糸を手前のみぞ（B）にかけるようにして向こう側に出します。



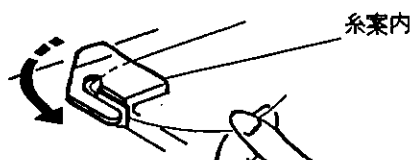
- ④ 下糸を10cmくらい引き出して、
角板をつけます。

●上糸の準備をしましょう

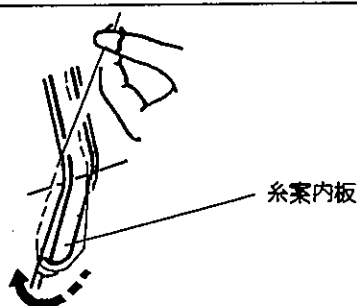
★上糸を掛けます



- ① 押え上げをあげます。
- ② はずみ車を手前に回し、天びんを上部にします。



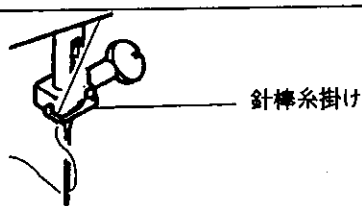
- ③ 糸こまから糸を引き出して糸案内の向こう側から糸案内板の右側にそって下におろします。



- ④ 糸案内板の下を回して、右から左に掛け、上に引きあげます。



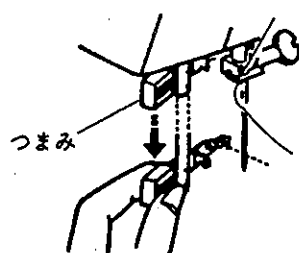
- ⑤ 天びんへは、右から後ろを回して左へ出し、手前に引き出して、まっすぐ下におろします。



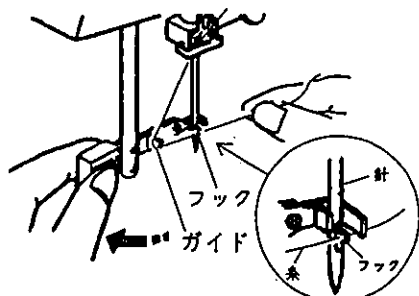
- ⑥ 針棒糸掛けに左から掛けます。

- ⑦ 糸通しを使って針に糸を通します。
(糸通しの使い方は、12ページをごらんください。)

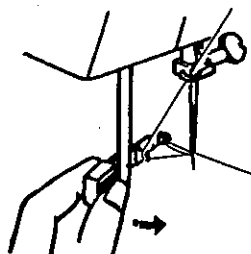
●糸通しの使い方



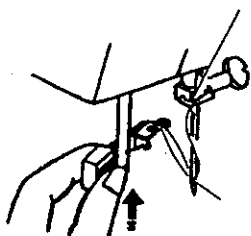
- ① 針を上げて、糸通しつまみを止まるまでいっぱいにさげます。



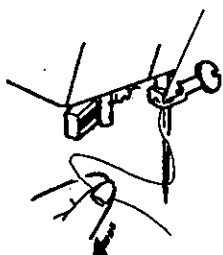
- ② つまみを矢印方向へまわしてフックを針穴に入れます。糸をガイドとフックに掛けます。



- ③ つまみを矢印方向に引くと糸が輪になって出てきます。



- ④ つまみを静かに押しあげ、糸の輪を引きあげます。



- ⑤ 糸の端を糸通しからはずし、針穴から端を引き出します。

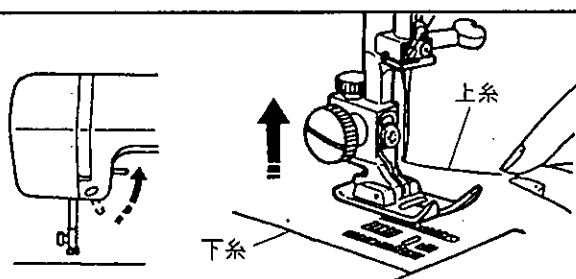


針は、11～16番、およびジャノメブルー針が使えます。

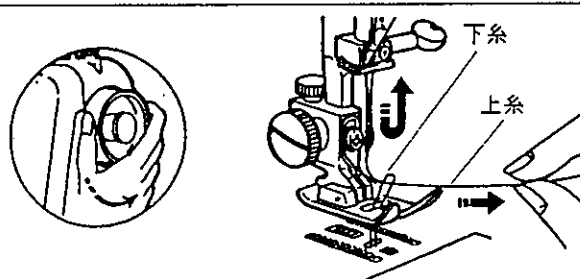


糸は50～100番が使えます。

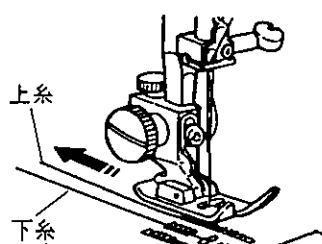
●下糸を引きあげるには



- ① 押え上げをあげ、上糸を持ちます。



- ② はずみ車を手前にまわし、針をいったんさげて、あげます。上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。



- ③ 上糸・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット ウール・化繊布	絹 糸 80番～100番	9番～11番
		綿 糸 80番～100番 化繊糸 80番～100番	
普通の布	普通木綿・化繊布 薄手ジャージー 一般ウール・化繊服地	絹 糸 50番	11番～14番
		綿 糸 60番～80番 化繊糸 50番～80番	
厚い布	デニム ジャージー コート地 キルティング	綿 糸 50番	14番
		絹 糸 50番	14番～16番
		綿 糸 40番～50番	
		化繊糸 40番～50番	16番
		絹 糸 30番	
		綿 糸 30番	

*一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、糸と針を選び、試し縫いをして確かめてください。

*原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

*伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャンメブル針を使用すると効果があります。（市販SP針も同様の効果があります。）

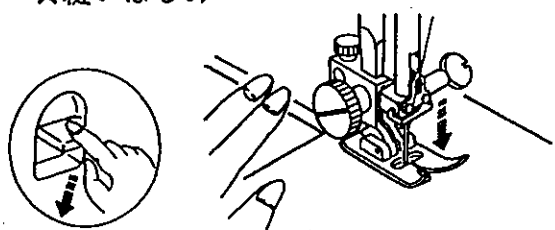
実用縫いいろいろ

●直線縫い

セッ
トの
目安

模 様	押 え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル
	A基本押え	1.5~4	2~6

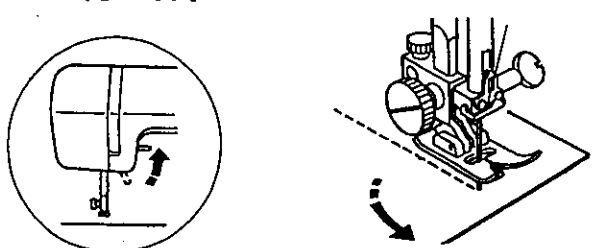
★縫いはじめ



糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ゆっくり縫いはじめます。

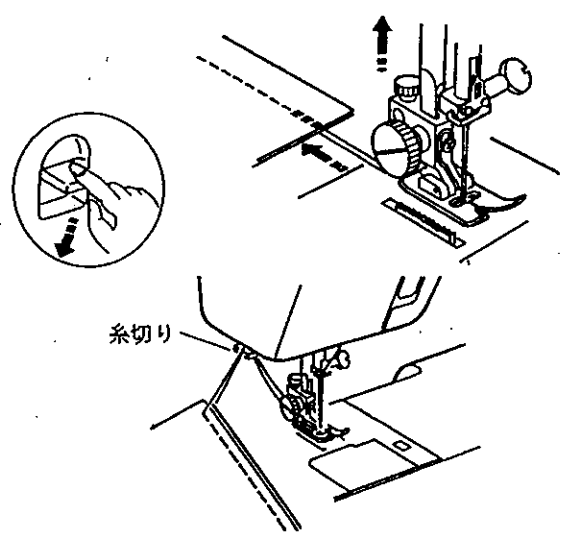
*縫いはじめのほつれ止めは、返し縫いレバーを押しながら数針返し縫いをします。

★縫い方向をかえるには



ミシンを止め、針を布にさしたままで押え上げをあげ、布をまわして縫い方向をかえます。

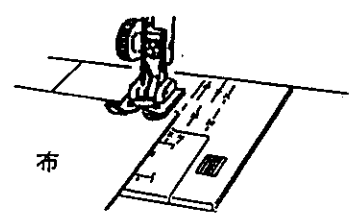
★縫いおわりと糸の切り方



返し縫いレバーを押しながら数針返し縫いをします。押え上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

糸切りで糸を切ります。

★針板ガイドラインの利用



布端を角板及び針板のガイドラインに合わせて縫います。

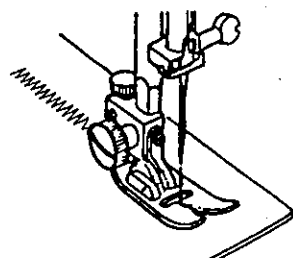
*数字は、針落ち中央からの距離です。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間かく (cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

●ジグザグ縫いとかがり縫い

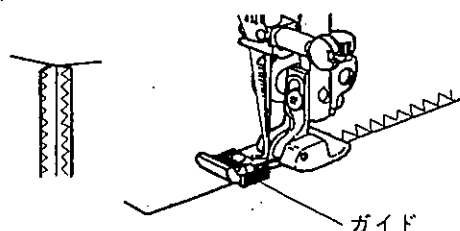
セッ トの 目 安	模 様	押 え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	*裁ち目のほつれ止めと して広く利用します。
		A基本押え または C裁ち目かがり押え	*ジグザグ縫い 0.5~4 *かがり縫い 1~2	2~5 標準~7	

★ジグザグ縫い



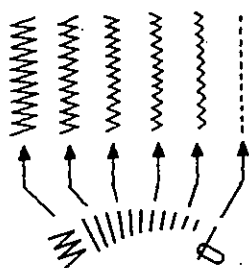
伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には
接着芯を貼るときれいに縫えます。

★ジグザグ縫い裁ち目かがり



※縫い目の幅を、最大にします。

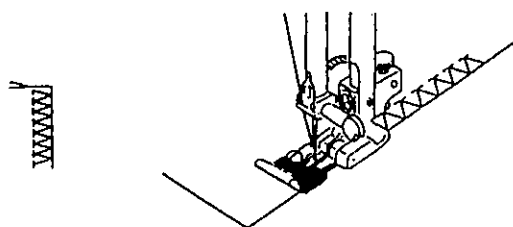
布端を裁ち目かがり押えのガイドにあてて縫います。



送りダイヤルを「1」に合わせて、
模様選択ダイヤルを  間でかえると、縫い目の幅（ジグザグ）は、図のように変化します。

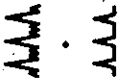
●かがり縫い

セッ トの 目 安	模 様	押 え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
		C裁ち目かがり 押え	S.S.	標準~7	



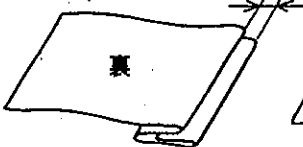
布端を裁ち目かがり押えのガイドにあてて縫います。
ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止めに利用します。

●くけ縫い

セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル
		Gくけ縫い押え	1~3	1~標準

★(布の折り方)

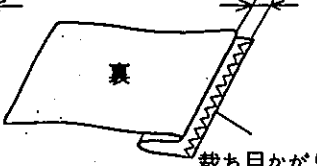
0.4~0.7cm



裏

うすい布、普通の布の場合

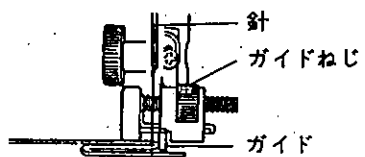
0.4~0.7cm

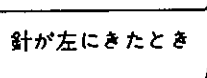


裏

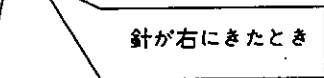
裁ち目かがり
かたい布、厚い布の場合

★(ガイドの合わせ方)



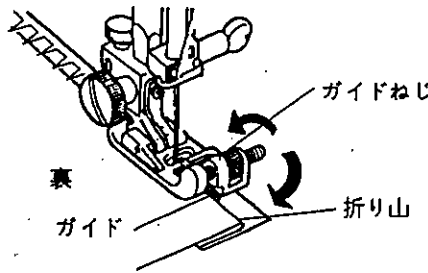


針が左にきたとき



針が右にきたとき

★(縫い方)



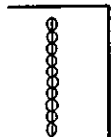
ガイドねじ
裏
ガイド
折り山

- ① 針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて押え上げをさげます。
- ② ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないように縫います。

●三重縫い

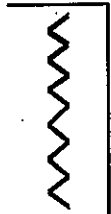
セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル
		A基本押え	S.S.	2~6

★直線三重縫い



丈夫な縫い目なので、補強縫いとして、袋物やズボンの股上縫いなどに便利です。

★ジグザグ三重縫い

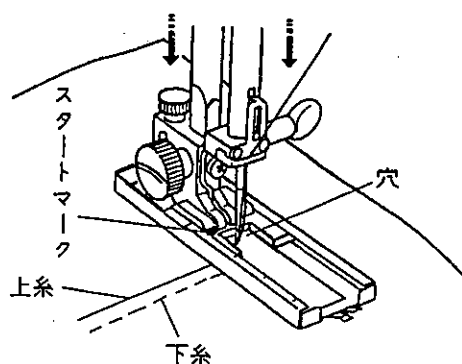


飾り縫いに使います。

* 布が前後するので縫い目がまがらないように注意して縫います。

● ボタン穴かがり

セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	*送りダイヤル(0.3) ...細かい縫い目(薄布用) 送りダイヤル(1) ...あらい縫い目(厚布用)
	1 2 3	J ボタンホール押え	0.3~1 (の範囲)	1~標準	

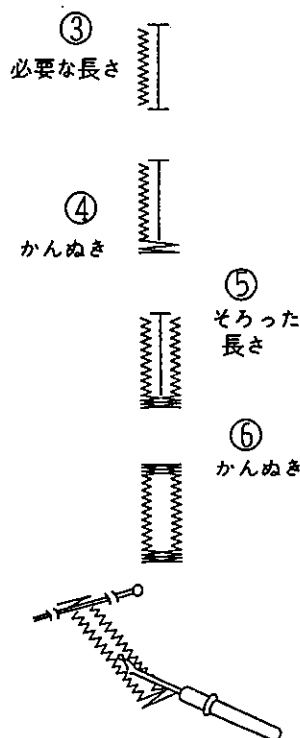


*縫うものと同じ布で、試し縫いをして、確かめてから縫ってください。

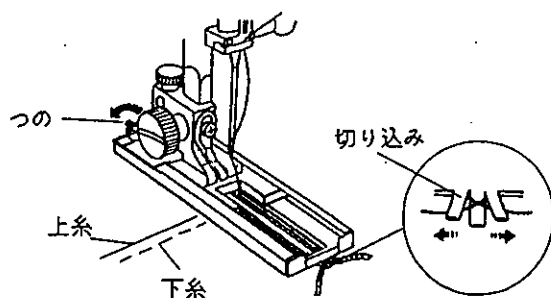
*伸縮性のある布には、布の裏に伸びにくい芯地を貼ってください。

(縫い方)

- ① 模様 1 を選びます。
- ② 上糸を押えの穴から下に通し、横にひきだして下糸とそろえ、押えを手前いっぱいまで引き出してスタートマークを合わせます。
- ③ 縫い始めの位置に針をさして、押えをおろし、ミシンをスタートさせます。必要な長さだけ縫い、ミシンを止めます。
- ④ 模様 2 を選び、かんぬきを5針くらい縫い、ミシンを止めます。
- ⑤ 模様 3 を選び、左側と同じ長さまで縫い、ミシンを止めます。
- ⑥ 模様 4 を選び、かんぬきを5針くらい縫います。
- ⑦ 押え上げをあげて布を引き出し、上糸、下糸を10cmくらいのこして切ります。下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。
- ⑧ かんぬきの内側にまち針をさして、目ほどきで切りひらきます。



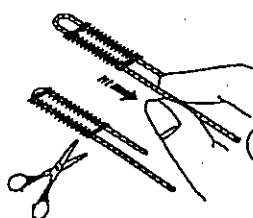
● 芯入りボタンホール



- ① つのに掛けた芯糸を、押えの下に通して、前側の切り込みに、はさみます。

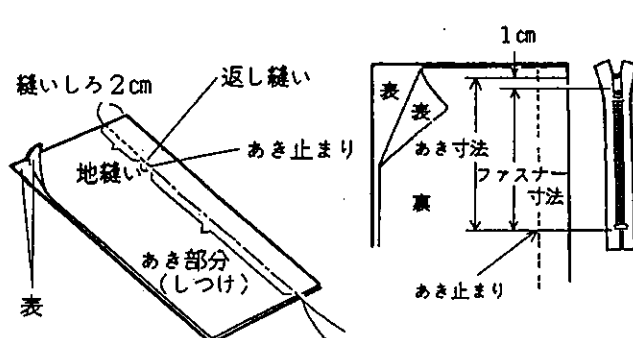
*縫い方は、ボタン穴かがりと同じです。

- ② 芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。



●ファスナーつけ

セッ トの 目 安	模 様	押 え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル
		Eファスナー押え	1.5~4	標準~6

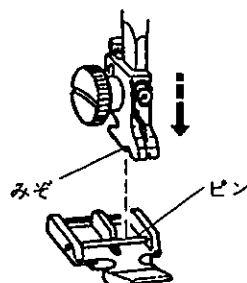


(準備) 例：左脇あきの縫い方

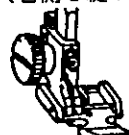
- ① 布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをし数針返し縫いをします。
- ② あき部分は、しつけをしておきます。

* あき寸法はファスナー寸法に1cmプラスした寸法です。

(左側を縫うとき)



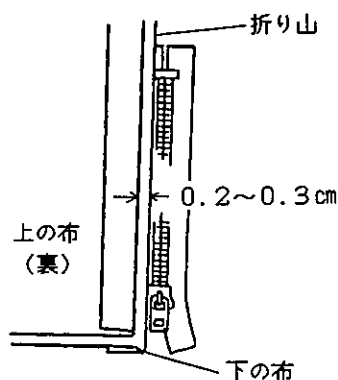
(右側を縫うとき)



<ファスナー押えのつけ方>

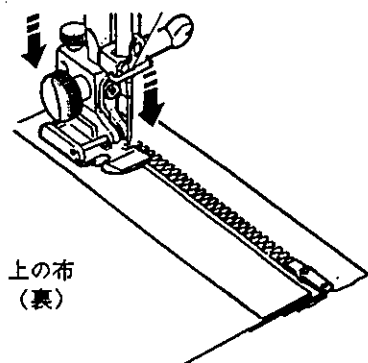
○左側を縫うときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。

○右側を縫うときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて左側にセットします。



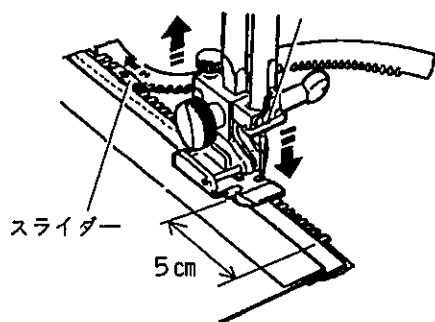
(縫い方)

- ① 縫いしろをわり、下の布の縫いしろを0.2~0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

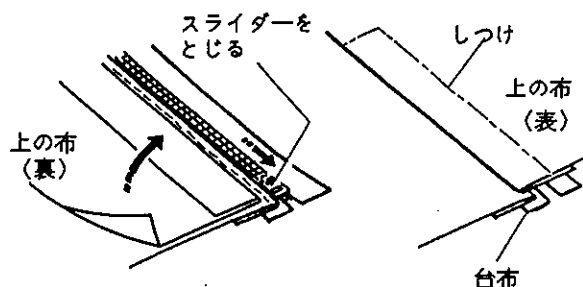


- ② 押えホルダーをファスナー押えの右側にセットします。

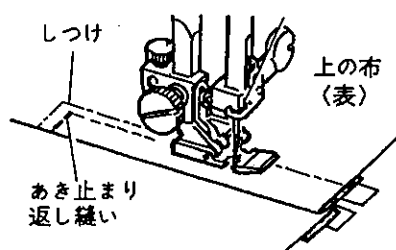
- ③ 押えの端にむしのきわを当てて、あき止まりから縫います。



- ④ ファスナーの端から5 cm位手前でミシンを止め、針を布にさします。押え上げをあげてスライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りの部分を縫います。

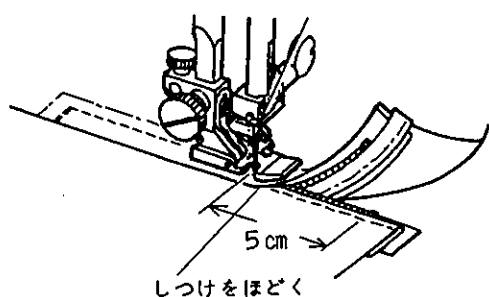


- ⑤ スライダーをとじ、つまみの金具を上にも倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布と台布をしつけで止めます。

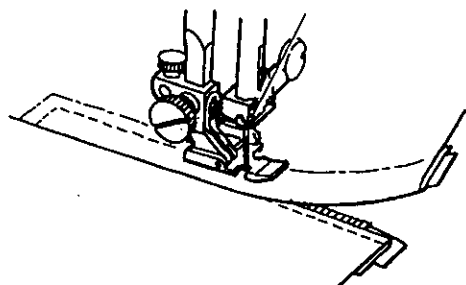


- ⑥ 押えホルダーをファスナー押えの左側にセットします。

- ⑦ 上の布のあき止まりを返し縫いして、押えの端にスライダーのきわを当てて縫います。

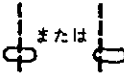


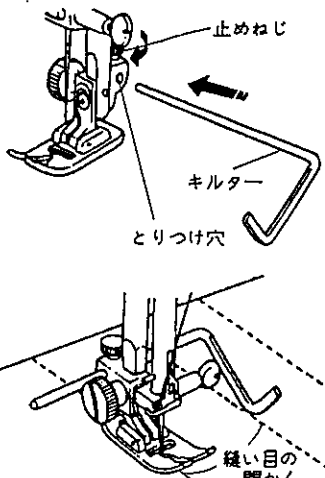
- ⑧ ファスナーの上側を5 cmくらい残したところでとめて、はずみ車をまわして針をさげ、針を布にさしたままで押え上げをあげて、しつけ糸をほどきます。



- ⑨ スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りの部分を縫います。

●キルティング

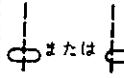
セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	*縫い目を平行に縫っていく方法で、袋物などの装飾に利用します。
	 または 	A基本押え キルター	1.5~4	標準~6	

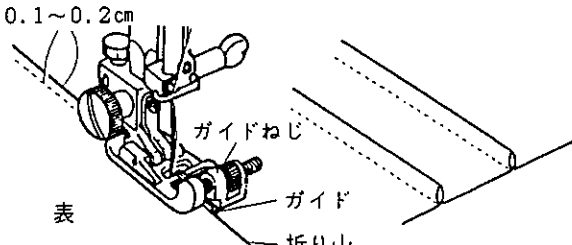


キルター止めねじをゆるめて、キルター（定規棒）を、とりつけ穴に入れ、縫い目の間かくに合わせて、止めねじをしめます。

キルターは、前に縫った縫い目をたどるのに使います。

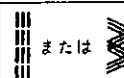
●ピンタック

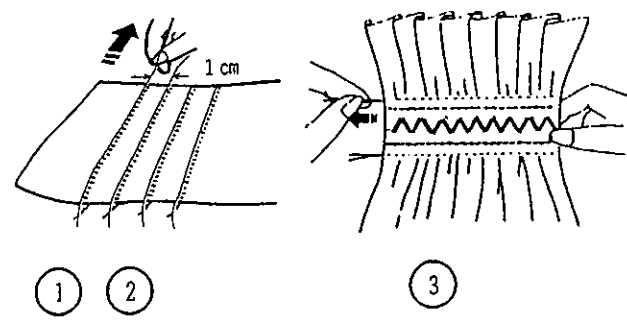
セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	*ブラウスの前身頃などの装飾に利用します。
	 または 	Gくけ縫い押え	1.5~3	2~6	



- ① はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1~0.2cm内側におりるように布を置いて、押え上げをおろします。
- ② ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、縫います。

●スモッキング

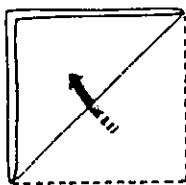
セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
	 または 	A基本押え	S.S.	標準~6	



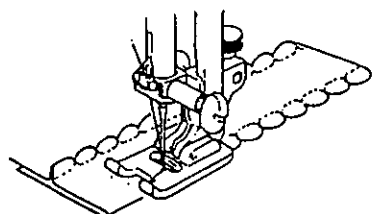
- ① 糸調子ダイヤルを1~3にして、縫い目のあかさ0.3~0.4cmの直線縫いを、1cm間かくで数本縫います。
- ② 上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いて、ひだをよせ、上糸と下糸を結びます。
- ③ 直線縫いの糸と糸の間に模様縫いをしてから、直線縫いの糸を抜きとります。

● シェルタック

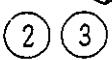
セッ トの 目安	模 様	押 え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	* 糸調子は、試し縫いをして シェルタックの山がきれい に出るように調節します。
		Fサテン押え	2~3	6~9	



①



②



③

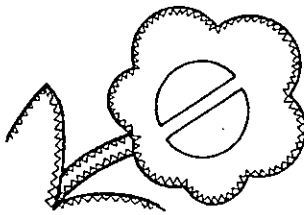
① うす手の布をバイアスに2つ折りにし、右側を輪(わ)にして押さえる下におきます。

② はずみ車を手前にまわして針が右にきたとき、布端ぎりぎりの外側におりるようにして縫います。

③ 布を開いて、タックされた山をアイロンで片側になおします。

● アップリケ

セッ トの 目安	模 様	押 え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	* アップリケ布は糊づけするか、 しつけて止めます。
		Fサテン押え	0.5~1	1~標準	

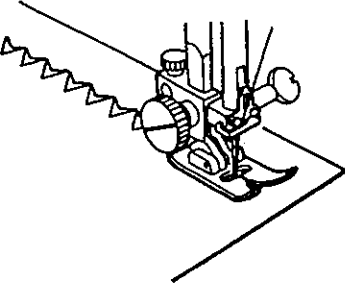


アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちを縫います。

* カーブのところや方向転換をするところでは、はずみ車を手前にまわして、針を下位置にしたままでかえると、きれいに仕上がります。

● スーパー模様縫い

セッ トの 目安	模 様					押 え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル
						A基本押え	S.S.	1~標準

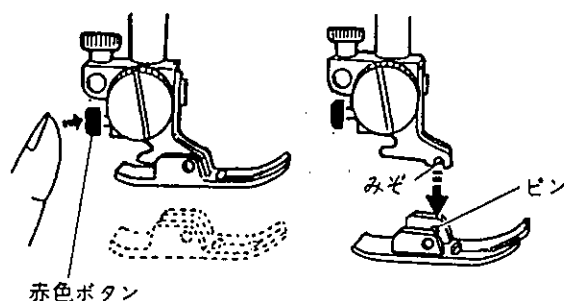


布が前後するので、縫い目がまがらないように注意して縫います。

* 目のとびやすい伸縮性の布や、目のつんだ布には、ブルー針を使用すると効果があります。

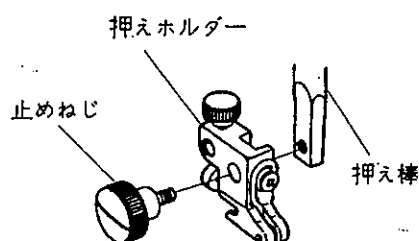
●押えのとりかえ方

必ず電源プラグをコンセントから電源プラグを抜いてください。



- ① 押え上げをあげて、赤色ボタンを押して、押えをはずします。
- ② 押えのピンを押えホルダーのみぞに合わせて押え上げを静かにおろします。

★押えホルダーのはずし方・つけ方



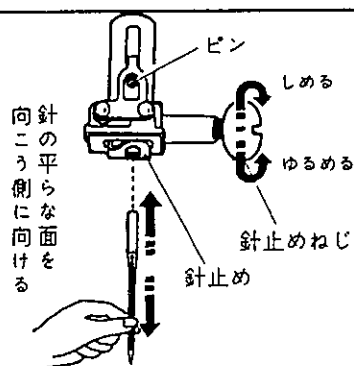
（はずし方）

押え上げをあげ、押えをはずし止めねじを、左にまわしてはずします。

（つけ方）

押えホルダーの穴と、押え棒のねじ穴を合わせ、止めねじをさしこみ、右にまわして、しっかりつけます。

●針のとりかえ方



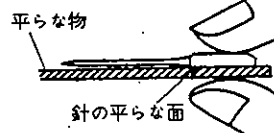
（はずし方）

針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針をはずします。

（つけ方）

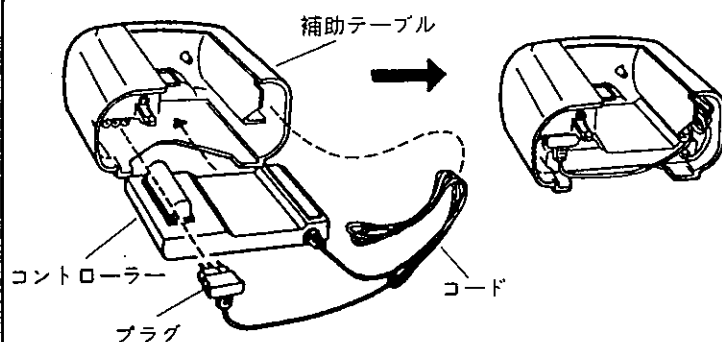
針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで針止めにさしこんで、針止めねじをかたくしめます。

針の調べ方



針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。針先が曲ったり、つぶれているものは使わないようにします。

コントローラーの収納



- ① コントローラーを補助テーブルに押しながれ入れます。
- ② プラグを補助テーブルの穴にさしこみます。
- ③ コードを4つ折りにして、補助テーブルに収納します。

ミシンの手入れと調整

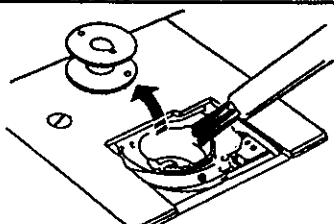
●ミシンの手入れ

使用後は、いきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。

*手入れのときには、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

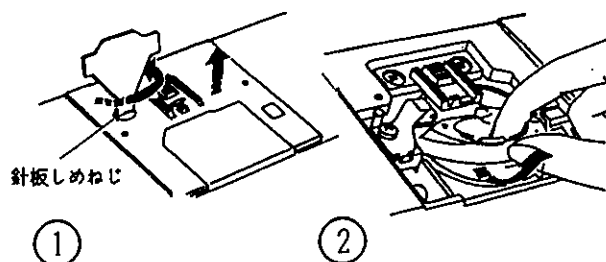
*針と押えは、とりはずして手入れをしてください。

★かまの掃除



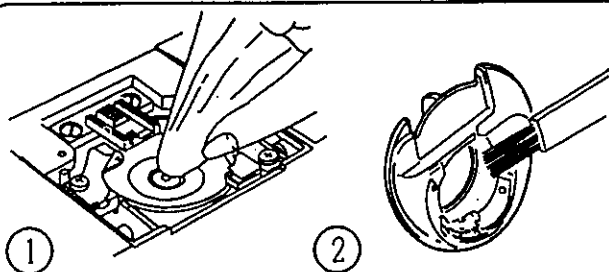
- ① 角板をはずし、ボビンを取り出して糸くずやほこりを、ブラシで掃除します。

★かまの分解



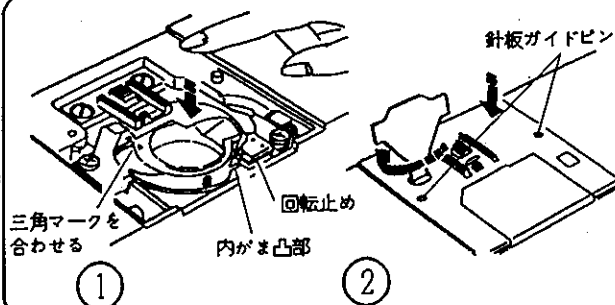
- ① 針板しめねじをはずし、針板をはずします。
- ② ボビンを取り出し内がまの手前を上へ引きながらはずします。

★かまと送り歯の掃除



- ① 送り歯のごみを、ブラシで手前におとし、さらに外がまを掃除し、外がまの中央部を布切れで軽くふきます。
- ② 内がまを、ブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

★かまの組立て



- ① 内がまをさしこみ三角マークを合わせて、内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。
- ② ボビンを入れ2か所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせて、しめねじをしめます。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

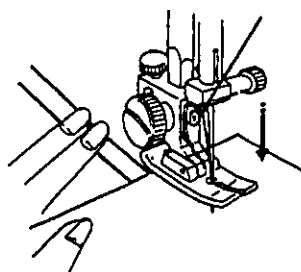
調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる。	1. 上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針がまちがっていたり、針先がつぶれている。 4. 針のつけ方がまちがっている。 5. 縫いはじめに、上糸・下糸を押えの下にそろえて引いていない。 6. 縫い終わったとき、布を手前に引いている。 7. 針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	11ページ参照 7ページ参照 22ページ参照 22ページ参照 14ページ参照 14ページ参照 13ページ参照
下糸が切れる。	1. 下糸の通し方が、まちがっている。 2. 内がまの中に、ごみがたまっている。 3. ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。	10ページ参照 23ページ参照 ボビンを交換する。
針がおれる。	1. 針のつけ方がまちがっているか、針がまちがっている。 2. 針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3. 縫い終わったとき、布を手前に引いている。 4. 布にくらべて針が細すぎる。	22ページ参照 22ページ参照 14ページ参照 13ページ参照
縫い目がとぶ。	1. 針のつけかたがまちがっているか、針がまちがっている。 2. 布に対して、針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針を使っていない。 4. 上糸の掛け方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。	22ページ参照 13ページ参照 13ページ参照 11ページ参照 針を交換する。
縫い目がしわになる。	1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸・下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。 3. 布にくらべて針が太すぎる。 4. 布にくらべて縫い目があらずすぎる。	7ページ参照 10・11ページ参照 13ページ参照 縫い目を細かくする。
布送りがうまくいかない。	1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. 縫い目が細かすぎる。	23ページ参照 縫い目をあらくする。
縫い目に溝ができる。	1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。	7ページ参照 13ページ参照
ミシンがまわらない。	1. コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 下糸を巻いたあと、はずみ車のクラッチつまみが押しこまれていない。 4. コントローラーを接続したままでスタート・ストップボタンを押している。	5ページ参照 23ページ参照 9・10ページ参照 5ページ参照
ボタン穴かがりがうましくない。	1. 布に対して、縫い目のあらかさが合っていない。 2. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	17ページ参照 17ページ参照
音が高い。	1. かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2. 送り歯に、ごみがたまっている。	23ページ参照 23ページ参照

1. 直線押え (組) (NO. 823801015)

●直線縫い

<セットの目安>

模様選択ダイヤル.....	
糸調子ダイヤル.....	2~6
送りダイヤル.....	1.5~4
押え.....	
	H 直線押え



(縫い方)

糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ゆっくり縫いはじめます。

2. 三つ巻き押え (組) (NO. 820809014)

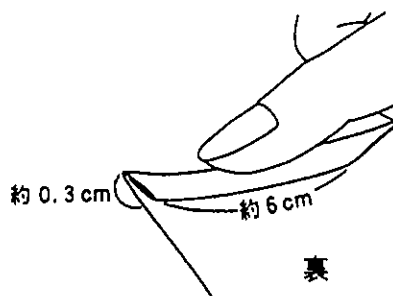
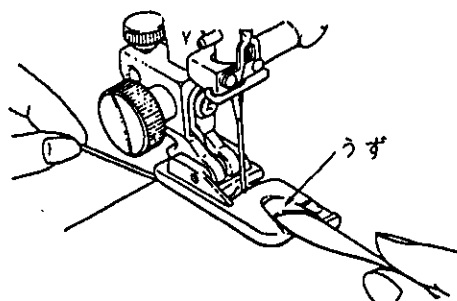
●三つ巻き縫い

<セットの目安>

模様選択ダイヤル.....	
糸調子ダイヤル.....	3~6
送りダイヤル.....	1.5~4
押え.....	
	D 三つ巻き押え

(縫い方)

- ① 布端の長さ約6 cmを、約0.3 cmの幅で二度おりまげます。
- ② 縫いはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。
- ③ 上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押えのガイドを合わせて1~2 cm縫います。
- ④ はずみ車をまわして針をさし、押えを上げておりまげた布の部分を押えのうずの中に巻きこみます。
- ⑤ 押え上げをさげ、布端を立てて、引きぎみに持ちあげながら縫います。



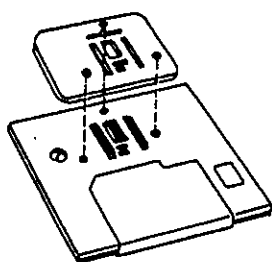
裏

3. イーブンフット (組) (NO. 214870008)

使用方法是、イーブンフット (組) に説明書が付属しています。

4. ダーニングプレート……………(NO. 653801104)

●ダーニングプレートのつけ方

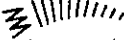


ダーニングプレートの裏についているピンを針板の穴におさめます。

ダーニングプレートは、ボタンつけやししゅうなど、ミシンが布を送らないようにするときに使います。

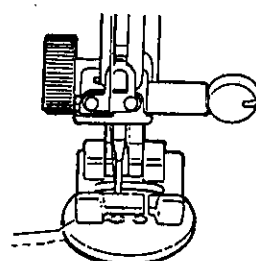
●ボタンつけ

<セットの目安>

模様選択ダイヤル……………  * ボタンの穴の幅に合わせる
糸調子ダイヤル…………… 標準～7
押 え ……………  Fサテン押え

* 送りダイヤルの操作は必要ありません。
(縫い方)

- ① 針をあげて模様  を選び、はずみ車を手前にまわして針が左にきたときボタンの左の穴に落ちるようにします。



- ② ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押さえ上げをさげます。はずみ車を手前にまわしてボタンの右の穴に針が落ちるように模様選択ダイヤルをまわします。
- ③ 5～6針縫ったら、模様  を選び、数針止め縫いをします。

●ししゅう

<セットの目安>

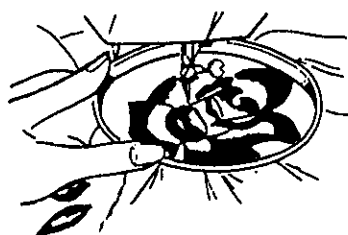
模様選択ダイヤル……………  
糸調子ダイヤル…………… 0～標準
押えと押えホルダーをはずします。

* 送りダイヤルの操作は必要ありません。

(縫い方)

- ① 布をししゅう枠にピンと張ります。
- ② 上糸の端を左手でつまみ、針を縫いはじめの位置にさし、押え上げをおろします。
- ③ はずみ車を手前にまわして針をあげ、上糸を引いて、下糸を布の上に引き出します。
- ④ 左手の指先で上糸と下糸を押えて止め縫いをし、余分な糸を切ります。
- ⑤ ししゅう枠を手で下に押しつけるようにし、ゆっくり縫いながら、針が布から抜けている間にししゅう枠を動かし、模様を縫います。

* 動いている針に手を近づけすぎて、刺さないように気をつけましょう。



修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保存して下さい。
- 無料修理保証期間内（お買い上げ日より一年間です）およびそれ以降の修理のつきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付け下さい。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後8年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後も、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスを行います。
ただし、次のような場合は修理できないことがあります。
 - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 4) お買い上げ店、又は当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申し越し下さい。

蛇の目ミシン工業株式会社
東京都中央区京橋3-1-1
TEL. 0120-277039（フリーダイヤル）
（受付 月曜日～金曜日）
9時～12時
13時～17時

仕	様
使用電圧	100V 50/60Hz
消費電力	60W / ランプ12W
外形寸法	幅42cmX奥行17cmX高さ30cm
重量	8.0kg（本体）
使用針	家庭用 HA X 1
縫速度	毎分700回転

仕様及び外観は改良のため
予告なく変更することがあ
りますのでご了承下さい。

蛇の目マシン工業株式会社

〒104-8311東京都中央区京橋3-1-1 ☎(3277) 2361~2